

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	◎	住関連専門店（従業員）	・高単価の秋冬商材のニーズにより売上が好調に推移すると推測される。また、プレミアム付商品券もまだ予算があるため、良いカンフル剤となっており期待をしている。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	・10月以降は年間を通して繁忙期であり、既にオンハンドでも高稼働が予想され、値付けも高い設定である。これを踏まえ景気の上昇が考えられる。
	◎	タクシー（統括者）	・客単価上昇に合わせて、乗務員採用も好調に推移している。
	◎	ゴルフ場（営業）	・降雪や寒さが厳しくなければ、来客数は大幅に伸びる可能性がある。
	○	商店街（代表者）	・商店街での店舗の開業が秋口に2～3件予定があるため、景気は回復傾向にあると予想している。
	○	百貨店（企画担当）	・クリスマスや年末年始に向けた需要や近隣施設でのイベントにより来客数の増加が見込める。
	○	百貨店（リーダー）	・夏から秋への気候の変化が影響すると予想される。行楽シーズンを迎え、外出スタイルの需要が高まることが期待できる。
	○	乗用車販売店（役員）	・年末に向け、SUVの注文再開が予定されているため、多くの来客が見込まれる。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・例年と動きはほぼ同じで、夏場を過ぎ秋口に入るとコーヒーの消費量も増えてくる。それに伴い家庭用のコーヒーの消費も増えてくる。当地は大規模半導体工場が立地しているため、一見客も含め来訪者数は増加する傾向にあり、やや良くなると予想している。
	○	観光旅館組合（職員）	・九州ふっこう応援割で客の動きが少しでも良くなることを期待している。
	○	観光型ホテル（総務）	・九州ふっこう応援割など景気喚起の対策に期待している。
	○	観光型ホテル（専務）	・当県でも10月から九州ふっこう応援割が始まると発表されたため増客を見込んでいる。
	○	観光型ホテル（支配人）	・令和8年熊本地震によって、夏休み期間中の多くの宿泊・宴会の予約がキャンセルとなったため、九州ふっこう応援割等の支援に期待している。10月以降は団体受客も前年よりプラスで推移しているため良くなるとみられる。
	○	旅行代理店（職員）	・秋のバスツアーと国内企画商品の予約が好調である。
	○	旅行代理店（統括者）	・令和8年熊本地震に関する被災者の生活となりわい支援のためのパッケージに期待している。
	○	タクシー運転手	・秋のゴルフシーズンの人出を期待したい。
	○	通信会社（社員）	・前年は調子が良かったが、今年も同等の数値で推移している。新しい商材が増える予定なので、更に伸びると推測している。
	○	テーマパーク職員	・中国発クルーズ船の博多湾への寄港が復活していて、インバウンドの増加が見込める可能性がある。
	○	観光名所（職員）	・プレミアム付商品券等の取組により、一時的に消費が上向くと予測している。
	○	理容室（経営者）	・客の年齢層が高いため、今月は暑すぎて外出を控えた客が多かったが、今後涼しくなっていくため客の動きに期待している。
	□	商店街（代表者）	・ベースアップが行われても、実際のところ、給与はほとんど変わらない人も一方、物価は上がっているため、客の消費活動はとも抑えられている。
	□	商店街（代表者）	・景気が良くなる要因が見当たらないため、商店街、来街者、客の様子も今と変わらない。
	□	商店街（代表者）	・商店街の景気は変わらず悪い。
	□	商店街（代表者）	・プレミアム付商品券の発行により多少の売上が見込める。
	□	商店街（代表者）	・暑さが和らぐ気配もないため、引き続き客足の減少が続くと危惧している。
	□	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・今後2～3か月で大幅に売上が増加する要因もなく、平行線を予想している。天候は不安定で、中東情勢の先行きも不透明ではあるものの、今後の売上は現状維持と考えている。
	□	百貨店（経理担当）	・衣料品を除いた部門では売上の改善がみられつつあるが、売上のメインである婦人服関連の売上が伸び悩んでいる。インバウンド需要は回復傾向である。

☐	百貨店（営業担当）	・ガソリン、エネルギー価格の上昇が高止まりしていて、食品の値上げも続いているため厳しい状況である。
☐	百貨店（営業企画担当）	・消費税減税への期待感から消費マインドは若干持ち直してくると期待している。
☐	百貨店（業務担当）	・現在は買回品やし好品といった需要より、最寄品や生活必需品の需要が高まっている。これから景気が良くなることは考えにくく、現状が続くと判断している。
☐	百貨店（経営企画担当）	・売上は7月以降回復傾向にあるものの、売上の基盤となる婦人衣料品が前年割れで推移しているため、今後2～3か月の景気については、今月と同水準で推移するものと見込んでいる。
☐	スーパー（店長）	・今後も同様の状況で変わらないと判断しており、可処分所得が上がりなければ消費自体は上がってこないと予測される。10月からはビール類の値上げがありインパクトは大きいと判断しており、来客数への影響が懸念される。
☐	スーパー（総務担当）	・大手スーパーは値下げを行っており、この競争環境下で前年比プラスに転じるのはかなりハードルが高い状況である。
☐	スーパー（企画担当）	・本来であれば、インフレ率に比例して商品単価、客単価は上昇していくとみられるが、客が特売日に集中することからインフレ率までの伸長はみられない。ただし、まとめ買いで買上点数は伸長しているため、景気に変化はない。
☐	スーパー（従業員）	・物価高騰や人手不足等が続き、景気は変わらない。
☐	コンビニ（経営者）	・特に景気が上向くような材料は見当たらない。
☐	コンビニ（経営者）	・節約志向は継続するため、買上点数の回復には時間が掛かると見込んでいる。
☐	コンビニ（エリア担当）	・引き続き値上げによる物価高の影響は変わらない。
☐	コンビニ（店長）	・中東情勢の混迷化や物価高によって、悪い状態が続く。
☐	コンビニ（エリア担当・店長）	・残暑が続くと夏物商材の残存があるものの、その他の商品は前年と変わらないため、売上に伸びがないと予想される。
☐	衣料品専門店（店長）	・国内外で自然災害が発生し、世界情勢が不安定であるため、景気は余り良くない状態が続く。
☐	衣料品専門店（取締役）	・11月は気候が良くなり、景気に非常に影響すると考えている。特に服飾に関しては、気分的にも装いに変化が出て8月より動きが良くなると見込んでいる。しかし、石油価格や金利など様々な要因が国民の生活に関連してくるため、安心できる景気には遠いと考えている。
☐	家電量販店（店長）	・家電の買換え補助金やリフォームの補助金などの特殊要因により、現在は好調である。補助金がある間は、同じような動きが続くと見込んでいる。
☐	家電量販店（店長）	・景気が上向く要素が見当たらない。
☐	家電量販店（店員）	・景気の先行きが不透明のままで、景気回復の期待も現実的ではない。
☐	家電量販店（従業員）	・暑さが続き冷房器具の需要は一旦増えたが、お盆明けで買い控えが増えたため、現在は落ち着いている。
☐	乗用車販売店（役員）	・現状より改善する要因が思い付かない。
☐	乗用車販売店（代表）	・販売量の動きが変わるような要因が見当たらない。
☐	住関連専門店（経営者）	・中東情勢やウクライナ情勢が収束する気配がない。また、生活必需品や食品の値上げが続いており、置き家具については必要最小限度の購入が続く。
☐	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・8月の持ち直しを維持するのが精一杯で、これより上がる要素がない。
☐	高級レストラン（経営者）	・先の見通しが立たないため、先々が不安である。さらに、状況が悪くなることも考えられ危惧している。
☐	スナック（経営者）	・令和8年熊本地震や関東の水害に加え、連日の猛暑で夜の外食を控える傾向になっている。特に法人の団体利用が減っていて、インバウンドの利用は増えているが、日本人利用客の減少を補えるほどではない。
☐	旅行代理店（統括者）	・燃油価格の高騰など、物価高騰の先行きは不透明なものの、現在の販売動向から変化する要素が見当たらない。
☐	タクシー運転手	・来客数が減る時期になるが、客単価が上がっているため前年と変わらない。

□	通信会社（企画担当）	・次年度に向けた見積依頼や相談は一定数あり、顧客の検討意欲は維持されている。一方で、足元の案件については引き続き受注までに時間を要しており、今後の案件化の程度も見通しにくい。2～3か月先についても、販売量は現状と大きく変わらないとみている。
□	通信会社（役員）	・電気料金等への補助額削減、中東情勢の停滞、新生活物資の値上がり等、地域経済改善のきっかけになる要素が見当たらない。
□	通信会社（企画担当）	・景気が変化する理由が見当たらない。
□	通信会社（営業担当）	・景気回復は、給与の変動が発生しないと難しい。
□	美容室（経営者）	・2～3か月先になると少しずつ涼しくなり、景気は良くなるとみられるが、商品が値上がり傾向であるため、景気回復は望めず現状と変わらない。
□	美容室（店長）	・新規の客はなく、従来の固定客のみのため来客数に変わりがない。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・今後の受注量は、ほぼ横ばいを予想している。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・報酬改定に伴う賃上げ額は、他産業との比較では少額にすぎず、業界全体の担い手不足の解消には至っていない。外国人材採用も特定技能制度で進めているが、飲食業界と同様に受入枠上限数に近づいており、来年度には受入れ停止が想定されるため、人材不足による機会損失の解消は困難である。
□	設計事務所（所長）	・2～3か月先も今月と同様で変わらない。
▲	商店街（代表者）	・当地は、令和8年熊本地震と猛暑によって来街者が少なくなっているため、各店舗の売上も通常より随分と悪くなると予想している。
▲	一般小売店〔精肉〕（店員）	・売上や人件費などの経費が高騰しており、値上げがまだ追いついていないため、景気は悪くなる。
▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	・令和8年熊本地震の発生後、被災地から離れた飲食店は繁盛していると聞く。しかし、花屋である自社では復興での新築祝い事などの特需はあるかもしれないが、しばらくは現状と変わらず停滞した時期が続くとみている。
▲	百貨店（企画担当）	・今月の景気判断からでは、インバウンドの売上が好調をけん引する原動力となっているため、現状の物価上昇と国内客による売上傾向を考えると若干のマイナス基調になるとみられる。九州ふっこう応援割も10月から始まるが、売上の影響はそれほど見込めないと推察する。
▲	スーパー（店長）	・国際情勢の悪い状態が続いており、原料輸入への影響が徐々に大きくなるとみられる。物価上昇の圧力がより強まってくことで、更なる単価上昇は避けられず、一般消費者への悪影響が大きくなり、一層の景気後退につながると考えている。
▲	スーパー（経理担当）	・イラン情勢がまだ収束しておらず、インフレ傾向が続くと推測している。
▲	コンビニ（経営者）	・世界情勢によって厳しさが増している。国内の様々な対策により景気が上向くことを期待している。
▲	コンビニ（経営者）	・物価高に変化がない限り、今後も変わらない。
▲	衣料品専門店	・中東情勢などで先行き不透明な状況が長く続いているため、来客数はやや悪くなる。
▲	家電量販店（従業員）	・中東情勢の不透明な状況が続いており、いつまた工事部材等の入手困難な状況が発生するか不透明である。
▲	その他専門店〔書籍〕（副店長）	・オープンした8月の売上が想定以上に好調であったため、9月の売上は悪くなると予想する。
▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・人気雑貨等のアイテムは期待を持てるものの、文具雑貨ブームが落ち着き始めている点や、物価高騰の影響により、アパレルを中心に現状より落ち込むと考えている。3か月予報でも例年以上に残暑が多く、涼しくなるのは遅いと予報されているため、単価の高い冬物商材の需要につながるとを期待している。
▲	一般レストラン（スタッフ）	・景気が良くなる要因が見当たらず、年末に向けて消費も落ち込むと推測している。
▲	ゴルフ場（従業員）	・ナフサ不足による問題は徐々に回復すると考えるが、猛暑と地震の影響は当分の間続くと予想される。
▲	設計事務所（所長）	・自然災害や中東情勢等の影響がどこまで続くのか不透明で、景況感今後の国際情勢に左右されると推測される。

	▲	設計事務所（代表）	・更なる物価や金利の上昇により景気はやや悪くなる。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・前月までは来場者数は微増傾向であったが、令和8年熊本地震以降は減少に転じており、しばらくこの状態が続くと予想される。
	×	*	*
	◎	電気機械器具製造業（経営者）	・今後も受注は更に増える見込みであるが、既にキャパオーバーの状態、残業を含む生産対応が課題となっている。
企業 動向 関連 (九州)	○	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・2～3か月以内に主要地区の出版予定を控えている。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・2～3か月先は更に材料の供給量が増加して、今後は受注量が若干増えてくと予測している。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・半導体関連の客から景気が良くなるとの情報があり、売上は若干良くなると予想される。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・大手企業では、A I半導体への投資が避けられない状況となっているが、既存の半導体も重要であり、その製造やメンテナンスを受け入れる先としての需要もあると見込んでいる。
	○	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・新車の立ち上げや令和8年熊本地震の復興などにより、若干ではあるが上振れを見込んでいる。
	○	広告代理店（役員）	・補助金や政府、地方自治体の様々な戦略的バックアップによって景況感は良くなると見込む。
	□	農林水産業（経営者）	・9月、10月は原料となる鶏の入荷が増えるが、今年の異常な暑さと節約志向の影響で先行きが読めない状況である。従来だと秋の行楽シーズンである10～11月は消費も大いに伸びる月であるが、今年の先行きは分からないというのが本音である。
	□	家具製造業（従業員）	・インバウンドやレジャーの回復に伴い、大規模施設や宿泊施設の案件は安定してくると見込んでいる。
	□	化学工業（総務担当）	・拡販等を進める予定だが、中東情勢や世界経済の影響で先行きが不透明である。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客の業績目標から変わらないと予測している。
	□	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・顧客の情報によると、今後の増産は見込めておらず、現状のまま推移するとの見解で、今のところ生産が落ちることはない。
	□	輸送業（従業員）	・最低賃金の引上げ等も考えると良くなるとは考えられないが、現状を維持することは可能だと見込んでいる。
	□	輸送業（総務担当）	・物価高や中東情勢など気になる要素はあるものの、予測の範囲とすれば今月と余り変わらない。賃金上昇の影響もあるが、人材が採れず、人手不足が景気の足を引っ張る可能性が考えられる。
	□	通信業（職員）	・今年度の受注目標と比較すると、営業件数に関する情報が大きく不足した状態が続いており、入札の失注なども発生している。今後の営業活動及び情報収集で充当する必要はあるが、現時点で見込みが立っていない。
	□	通信業（経理担当）	・令和8年熊本地震の影響により、複数の顧客において、当年度の稼働を予定していた案件が次年度以降に延期となっている。現時点では損益に重大な影響はないと認識しているが、今後も進捗状況を注視する必要がある。
	□	金融業（経営者）	・会員数や受託の引き合いの動きが鈍く、今のところ急増する見込みはない。
	□	金融業（調査担当）	・今年度の県内企業の設備投資は前年度に比べて増加が見込まれるが、物価高や不安定な国際情勢などの影響もあり、当面の景気は現状程度で推移するものとみられる。
	□	金融業（営業担当）	・金利の一層の引き上げが見込まれており、事業者のマインドは低い。収益面の低下が不安要因となっている。
	□	金融業（営業）	・災害や猛暑により今夏は行動を控えた人の反転需要を期待したいが、気分的な停滞感が気になり、大きな変化はないと見込んでいる。
	□	金融業（調査担当）	・中東情勢も大きな影響がなく、現在と同程度の状況が続くと予想している。
	□	新聞社〔広告〕（担当者）	・販売量が増加する好材料が見当たらない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数、問合せ件数に変化がない。

雇用 関連 (九州)	□	経営コンサルタント（社員）	・様々な対策は行ってみたが芳しくないため、これ以上の対応策は現在考えておらず、今後も変わらない。
	□	経営コンサルタント（社員）	・酒類の販売面では、インバウンドは高価な酒類を購入し、国内客は低価格の酒類を購入する傾向になっている。
	▲	農林水産業（従業者）	・米の需給に関しては農業生産側の経営を圧迫していて、離農が増える見込みである。米不足から前年米の価格が急高騰したため、一時的に農業者の懐は温まったが、米の価格高騰により消費が減少した。加えて、輸入米が増加した結果、需給を大きく逆転してしまった。当面は米余りの状況が続き、北陸、東北、北海道も豊作傾向が見込まれるため、今後は、非常に難しいかじ取りが迫られる。
	▲	不動産業（経営者）	・今後の仕事の量や価格は減少しているため、やや売上が悪くなる。
	▲	広告代理店（従業員）	・国内の状況は相変わらず円安が続いており、賃上げも抑えられている。国際情勢の先行きも不透明であるため、3か月後もやや悪くなっていると予測される。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・今後の市町村の調査や計画策定の業務における補正予算化が見通せず、地域によっては発注が変更になり、景気がやや悪くなることが推察される。また、各業者の受注量が減少し、今後の発注時に価格競争のおそれがあるため、受注に至らず、今後の景気は悪くなると予想している。
	×	繊維工業（営業担当）	・物価上昇に対応できない工場が多いため、次々に倒産や閉鎖があると推測している。失業率が増えていくことを懸念している。
	×	経営コンサルタント（代表取締役）	・令和8年熊本地震の影響が徐々に出てきているため、景気は下降する。
	◎	—	—
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・令和8年熊本地震で停滞し、落ち込んでしまった経済が少しずつ回復していくと推察している。国主導の支援策や九州ふっこう応援割なども順次適用されることから、景気も少しずつ上昇していくものと期待をしている。
	□	人材派遣会社（社員）	・今後についても短期案件を中心とした依頼は継続する見込みであり、全体としては現状維持で推移すると予想している。
	□	人材派遣会社（社員）	・求職者からは先付け案件の問合せが強く、事務職系の求人等の動きにもよると推察される。しかし、条件面によりエントリーにも至らないケースが多く、景況感としては余り変わらない。
	□	人材派遣会社（社員）	・最低賃金が年々高くなり、更に求人の出し控えが出てきそうである。前年の最低賃金の大幅アップの影響により、企業側は今年の上げ幅にとっても関心を持っている。雇用者の現行、新規共に賃金を上げていかなければいけないため、更なる業務効率化を図り、人件費を抑えていくしかないという声もある。
	□	人材派遣会社（社員）	・物価の上昇や自然災害の発生などがあるものの、景気は変わらないと予想している。
	□	職業安定所（職員）	・令和8年熊本地震の影響により休業をした管内の事業所の多くは業務を再開しているが、管内及び隣接するハローワーク管内の商業施設が8月下旬の時点でも閉鎖しているため、事業主及び労働者から支援策等の相談を多数受けている。8月の求人数は前年を上回る水準で推移しているが、今後の事業所の対応や助成金等の支援策の活用状況を注視する必要がある。
	□	職業安定所（職員）	・物価の上昇が続いているが、最低賃金も上昇する見込みのため、変わらないと予想している。
	□	職業安定所（職員）	・当面大きな変化をもたらすような要因が見当たらない。
	□	学校〔大学〕（就職支援業務）	・物価上昇の継続による消費マインドへの影響に加え、国内外の経済情勢や企業業績の先行きに対する不透明感が続いている。人手不足を背景とした採用需要は底堅いものの、企業の採用や投資に対する慎重な姿勢に大きな変化はみられない。個人消費、企業活動共に力強さを欠く状況が続いており、今後2～3か月で景気が大きく改善又は悪化する要因は乏しいことから、現状と大きく変わらないと考えている。
	▲	新聞社〔求人広告〕（社員）	・秋の値上げラッシュに、好景気への材料を見いだせない。

	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・最近では値上げの話題が出ない打合せはほとんどない。原材料や光熱費の上昇分を価格に転嫁せざるを得ない企業が増え、これまで据え置いてきた分もまとめて値上げに踏み切るケースが目立つ。今年の夏は猛暑と天候不順が続き、来客数や売上が落ち込んだという声も複数の企業から聞いている。求人広告の出稿状況を見ても、積極採用よりも欠員補充にとどまる企業が多く、先行きに慎重な空気がある。当面、景気が上向く材料は見当たらず、この数か月先も余り良くならない。
	▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	・人員を必要とする企業が減少している背景には、I T企業における案件の減少や一般企業における店舗やオフィス拡張の機会の減少にあると推察する。
	×	—	—